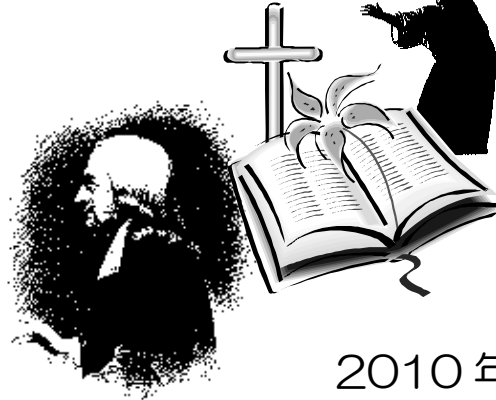


2010.11.28 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2010年

<ジョン・オズワルト著 『聖』を生きる人々>

第8章「新しい契約と聖なる生活」。

⑧「聖霊による勝利」

テキスト:

「なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」(ローマ8:2)

今回は、律法に従って生きたいと言う私の願いに反して、人間性に根を下ろしている罪の性質がその遵守を不可能にしている。この私を救うものは誰か、という悲痛な叫びで終わった。8章はその答え。

8章を纏めて言うと、「罪に打ち勝つ方法は、キリストの霊に私の内に住んで働いて頂くこと」である。つまり、「過去の罪からきよめられた後、神の霊が私たちの内に住んでくださることによって、契約の要求を満たすことができるようになる」のである。それを詳しく言うと、

1-4節: キリストは、罪と死の律法それ自体から私たちを解放された(2節)。形式的ではなく、「みなし」でもなく、実質的に解放した。私たちを支配する原則(磁場のようなもの)が、①罪の奴隷状態レギオンを思い出してください。かれは善への願いと裏腹に、墓場で日々自分の身を傷つけ、叫び声を挙げ、周りの人々にも迷惑をかけました。彼の内に宿っている悪霊に縛られていたのです。現われはどうあれ、私達はみな、罪の奴隷です。と律法主義(ねばならぬ主義)から、②御霊によって神の

性質が分与されると言う形で転換した。私達が律法を喜んで行う性質が聖霊によって注がれる(エゼキエル 36:26-27 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。27 わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行なわせる。) 罪が働き、死がもたらされると言う「原理」(支配的な法則)が、イエスを甦らせた聖霊のより強い原則に取って代わられたのです。この支配原理の転換が、この章全体のカギです。例えて言えば、地球と言う磁場があるために、方角を示す磁石針が動いているのですが、強力な磁石が傍にあると、針はその磁石に影響されてしまうのと似ています。罪の力という磁場は確かに働いているのですが、聖霊のより強力な磁力によって、罪の磁場は影響を発揮することが出来なくなるのです。本部で働いておられたある兄弟は、どうにもならないアルコール依存症で、そのために何度も仕事上の失敗をしてしまいました。ご家族がその救いのために祈っておられましたが、ついに教会に導かれ、救いに与り、すぐにではありませんでしたが、アルコールの絆から解放してくださいました。福音の力とは、そのようなものです。

5-9 節 : クリスマン生活とは、神に従うか、「肉」(神から離れたものとしての人間性=自己中心)に従うかの葛藤に苦しむ生涯ではなく、キリストの霊を持つゆえに、肉に支配されない生き方である(9 節)。自分の努力によるのではない。パウロがここで語っているのは、人間の体そのものに罪が宿しているとか、肉体をもっていること自体がもう罪深いのだ、と言うものではありません。勿論、人間の肉体に備わった食欲や性欲というものが制御不能となって悪さをするケースが沢山ありますので、肉体を悪と考える哲学は、当時も今も存在します。しかしこれは聖書の教えではありません。少なくとも、この文脈の中では、「肉」とは、人間が生まれつきもっている性質、神から離れてしまったものとしての人間性を指しています。「神を認めようとしない性質、神を第一にすることが出来ず、結局自分を第一にする性質のこと」(河村)です。

10-11 節 : 私たちは霊に仕えることを選んだので、私たちの「からだ」も生かされる(11 節 b)。

12-16 節 : 私たちは「せねばならない」という縛りの中に生きる奴隷ではなく、神の家族とされている。だから、当然のように神に相応しく生きることができる(15 節)。

17-30 節 : 私たちはこの世では、贖いの最終的な段階(栄化)を忍耐をもって待ち望むべきである(23 節)。

31-39 節 : 私たちの裁判官は同時に弁護人でもあるので、起訴されることはありえない。私たちは圧倒的な勝利者である(34、37 節)。

「キリスト者といえども、肉に於いては罪の奴隷であるが、キリストの故に、神はそこに目をつぶって、罪なき者のように私たちを愛する」という間違った福音をパウロは教えていない。神は、私たちを聖霊によって実質的に聖いものとし、聖く保ち続けたまう。

8 : 4 「御霊に従って歩む」のが鍵。

“Holiness unto the Lord” is our watchword and song;
“Holiness unto the Lord” as we’ re marching along.
Sing it, shout it, loud and long;
“Holiness unto the Lord” now and forever.